

桃 (モモ)



モモは中国北部黄河上流の高原地帯の原産である。弥生時代の遺跡からモモの種子が発見されているので、この時代にはすでに中国からはいって果実として食べられていたと考えられるが、現在のようなモモとは違っておりはなかつたと思われる。もっぱら花を楽しむ、薬用として用いられていたようである。現在のように甘い水蜜桃などが栽培されるようになったのは明治時代になってから岡山で栽培されたのが始まりとされている。モモとは果実をさす名で、モモの名はその実が多くなるので百(モモ)であるという。また真実(まみ)、燃実(もえみ)から転化したともいう。

「日本書紀」にいざなぎの尊が雷(鬼)に追われて逃げ帰った時に道端の桃の木に、桃の実を雷に投げつけたら、雷どもは皆逃げてしまったと記されている。これが桃を用いて鬼をふさぐ起源となつたという。桃がどのように邪気を払う霊力のあることは、古代中国の「山海経」や「淮南子」などにも記されている。それが日本に伝わったものである。文武天皇の頃から年末大晦日の追儺(ついな)式の中行事で、桃戸、華矢、桃杖で鬼を払ったと記されている。同じように、正月上卯の日に桃、椿の木などで作った卯杖を邪気払いにしたといわれている。これらのことから桃太郎の誕生となつたというのである。桃から生まれ桃太郎の鬼退治は、中国故事の桃文化が日本ですっかり消化された話である。それが江戸時代には節分の豆まきにまで展開した。

桜より桃にしたしき小家か
 中国では、魏の国(三〇)ひな人形が現在の形になつたのは江戸末期で、内裏びな二人、官女三人、五人囃子、隨身二人、衛士三人の十五人となつた。このように三月三日の上巳(じょうし)の節句に、桃は古くから欠かさずこのでさな花であり、もともとこの木の薬効から悪疫や疾病を防ぐと信じられ、女子の成長を祝うひなまつりをさかざるとして、くらしの中で深く親しまれていく。

節句は、本来餅供と書くのが正しい。この「供」という語には、人々が共に同じ飲食を、同じ場において賜うという意味が含まれている。昔は山や川で掛けがれを蔽つたあと、蓮などを採り、食事を作り、同そつて膳を共にしたにちがいない。

野に出れば人みなやさし桃の花
 素十
 海女とても陸こそよけれ桃の花
 虚子
 古代中国では「モモは邪気

を払い、また延命の効があり肺病に食うべしと、さらに用途は四つあり、すなわち熱が血室(肝臓)に入るを治し、腹中の滯血を泄し、皮膚の血熱、燥痒を除き、皮膚の凝滞した血を有す」という。

薬効
 結核や腸の弱い人は、実は繊維質が多く腸の働きを活発にする効果があり、たくさん実が出回っている時期にできるだけ食べておくとよい。魚に中毒した時も実を食べるとよい。

便秘には、白い花(白桃花)又は普通のモモの花のつぼみを乾燥したものを1回2〜3g煎じて服用する。

ふけ症、あせもに、手ぬぐい二折りの袋に少量の葉を入れ、5分くらい煎じた汁で、頭を洗うとふけ症が治る。あせもには煎じた汁をぬるに入れて入浴するといふ。

産前、産後、血の道、月経不順に桃仁1日3〜5gを煎じて服用する。かたい殻の中に種子が一つあって、これを桃仁と呼んで漢方薬の生薬とする。アマグリンが含まれていて、めいびく、芳香が出ていて、桃仁の配合されている漢方薬には、桂枝茯苓丸、潤腸湯、疎経活血湯、大黃牡丹皮湯、桃核承氣湯等がある。

いわる。血の道。の葉です。

養正会薬局 (鑑定)

家庭療法

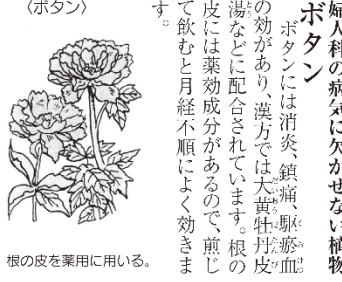
月経痛
 タバコが月経痛を治す
 タバコの火の熱で、月経痛を治す方法があります。タバコに火をつけ、足の薬指の爪の生えぎわの外側(小指側)に近づけます。

自分で熱いと感じるところまで近づけ、これを両足交互に5〜6回繰り返します。

同じ方法で、首のうしろ、髪の毛の生えぎわから5cmほど上がった部分を温めるのも、月経痛をやわらげる働きをします。



民間療法
ボタン
 婦人科の病気に欠かせない植物ボタンには消炎、鎮痛、駆瘀血の効があり、漢方では大黃牡丹皮湯などに配合されています。根の皮には薬効成分があるので、煎じて飲むと月経不順によく効きます。



おはあちゃんの知恵
 きんぴらゴボウやてんぷら、漬物などの材料として、ゴボウは私たちの日常の食卓になじみの深い野菜でございませう。古い時代に中国から薬草として、日本でも改良されて、根を食べるようになつたそうです。葉としての利用方法は、根または葉5〜10gを細かく刻み、これをコップ一杯分の水で煎じて、水の量が七〜八割にへつたらカスをし、さましてからこの煎じ液でうがいをする、扁桃腺炎や口内炎にいいですよ。また痰がのどにつまづて出ないときは根のしぼり汁を飲むとよいといわれています。

養正会薬局 高木 丈夫

子どもの病氣シリーズ その233

『小児喘息』
 喘息とは、喘鳴というゼーゼー、ヒューヒューという音を伴った呼吸困難を繰り返す病氣です。氣道がいろいろな刺激に對し過敏に反応し、氣管支が収縮したり、氣管支の内側の粘膜がむくみ、分泌液をたくさん出し、氣道が狭くなつて発作を起こします。小児喘息は成長と共に良くなる可能性が大きいといふことが最大の特徵です。又、ほこりやダニなどのアレルギー反応により、発作が起こるアトピー型がほとんどなので、抗アレルギー薬が有効です。

治療: 発作を起こさないこと、予防的治療がもっとも大切です。いかに発作をコントロールできるかという事です。発作が起こると、いろいろな炎症細胞が氣道に集まり、新たな発作を誘発したり、氣道の上皮を傷つけ、刺激に對し更に過敏に反応するようになり、つまり、発作がさらなる発作を呼ぶわけです。発作が起きた後の対処療法のみを繰り返していると、喘息はだんだん重くなつていくのです。

薬物治療: 薬物治療としては、次のようなものがあります。

①経口抗アレルギー剤
 ②インタールの吸入
 ③テオフィリン製剤
 ④β刺激剤の経口・吸入
 ⑤ステロイド薬の吸入(吸入による局所投与のため全身的な副作用はほとんどない有効な薬剤です。)
 テオフィリンは、氣管支を広げるためによく使われる薬ですが、併用薬の影響を受けやすい薬ですので注意が必要です。

生活の注意: なるべく普通に生活することが大切です。発作を恐れるあまり消極的な生活になってはいけません。自分の体なのですから、何をしたら発作が出るかということをよく理解し、発作が出たら軽減する方法を公得し、発作時、泣き騒がない、腹式呼吸をする、温かい水分を取る、痰を出す工夫をする、薬を止しにくむ、などです。運動によつて発作の出る運動誘発性喘息には、インタールを直前に吸入し、ウォーミングアップを十分に取ると予防できるという報告もあります。

喘息児がいる家庭では、できるだけ抗原となしうなもの除去する、という環境整備が重要で、その第一は、ほこり、ダニ、カビの除去です。室内の掃除と換気を心がけましょう。又、ペットなどは控えてもらいたいです。

小児喘息は、成長と共に良くなることが多いのですが、稀に命にかかわる重い状態になることもあります。定期的な診察を怠り、発作止めのため吸入薬を安易に乱用し、非発作時の治療をしないまま重症化する例は少なくありません。喘息は命にかかわる病氣なので、

養正会薬局 薬剤部